

発行：ひたちなか市の環境を良くする会
 会長 小川 和 昭
 編集：広報委員会
 監修：ひたちなか市環境保全課
 TEL：029-273-0111 (内3312)

環境から版

設立10周年

10年を振り返って

初代会長 渡辺 寛
 本会の設立10周年を迎え、事業者、民間団体、市民の多大なご支援ご協力に深く感謝します。

10年前、市は環境基本計画に基づき、市民、民間団体、事業者、及び市が協力して環境保全活動を推進する新組織を計画し、設立準備委員会の討議を経て本会が設立されました。私は会長を受け副会長は女性パワールの代表として栗田裕子さんに受けていただきました。組織は準備委員会から引き継いだ役員会の討議により、ごみ問題、温暖化防止、自然環境の3分科会、及び、広報、イベント、環境学習の3委員会を作りました。

市との共催となった環境シンポジウムは毎年小中学生の実体験に基づく発表で参加者の感動を呼び、環境四季時計の名称で自然観察会やキャンドルナイト等イベントを展開、各分科会は生ごみ回収と堆肥作り、フードマイレージの出前講座、エコライフの普及、竹林、多良崎城跡の整備、名平洞の水質浄化等々活動してきました。続きは、二代目会長の栗田さんへ(二面へ)どうぞ。

環境シンポジウム 2018

2月10日(土)市文化会館小ホールで、今年度は市主催で開催されました。(参加者：214名)



市毛小学校
 「地球を救おう ふるさと市毛を未来へ」
 昨年に続いて、早戸川の汚れ調査、早戸川探検で分かったこと、地域の取り組み、私たちにできること等について発表。



高野小学校
 「高野小学校とそのまわりの自然」
 高野原地区のホタル生息状況観察、校内の樹木の名前調べ、名前プレートの作成と取り付け、米、さつまいも作り、枯れ葉を利用した堆肥作り等について発表。



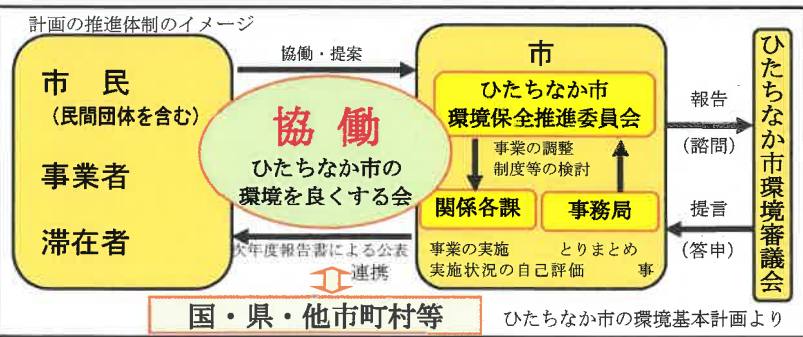
那珂湊第二小学校
 「湊二小の環境教育」
 花と緑の環境美化コンクールにおいて茨城新聞社長賞を受賞した校内花壇の紹介、地域の人を招いての菊作り体験学習、環境の総合学習等について発表。



勝田第一中学校
 「学校における環境活動」
 学期毎に行う環境学習、ポスター作成、緑化活動、地域の奉仕作業について、2年生の生徒会長、武石真文君が発表。



阿字ヶ浦中学校
 「地域に残る貴重な自然の保護活動」
 継続して16年目に入った沢田湧水地の調査と保護、スカシユリの育成、また情報発信について発表。



本会は、「ひたちなか市環境基本計画」に基づいて設立され、市民の身近な自然や環境を大切にすることを育むこと、環境保全行動の定着を図ることを目的に活動しています。具体的には、ごみ問題、地球温暖化防止、自然環境保全のテーマ毎に取組を計画し活動を行っています。

問合せ・申込先：ひたちなか市環境保全課
 TEL273-0111 (内線3312)

ひたちなか市の環境を良くする会 検索

広がりをめざして

二代目会長 栗田 裕子

ひたちなか市の環境が良くなるためには、環境にやさしい暮らし方をする市民が増えることが大切です。そこで、具体的に環境を良くするための活動と並行して啓発活動も進めてきました。ひたちなか市と協働で活動出来ることで、会の事業案内を市報に掲載したり、この環境かわら版を全戸配布して頂いたりしていることを大変ありがたく思っています。「協働のまちづくり」という言葉の流布によって多くの自治体に本会のような組織が出来たものの、環境講演会の開催などが主で、具体的な活動をしている会は少ないと聞きますが、これまで様々な活動を続けて来られたのは市民の環境意識の高さと市の懐の深さのお陰とちよつと誇らしく思います。次の世代や地域などとも連携しながら、さらに活動を広めていければと思います。

では、次は三代目会長の小川さんへ(三面)。



本会の虹色スカーフ

環境シンポジウム2018 本会の発表

かぐや姫と白雪姫の司会の下、会の10年の主な環境活動について『こんなことやり隊』を3人が紹介しました。



最初は自然環境分科会長磯前博巳さん。「市内を車で走っていると、手入れがされていない森林が目について、下草刈りとか間伐が出来たらいいな

と感じ、8年前から森林保全活動として美田多の風致地区の竹の間伐を行っています。8年間続けてきたことで、写真のように竹林の向こうの空が見えるようになりました。ご一緒に活動しませんか。」と呼びかけました。



次は会員になって3年目の萩谷斗美さん。「緑のカーテンを10年くらい前から、やっていました。

きれいで楽しく、省エネにも一役買ってくれる。市内にもっと広めたいなど思って、市に相談したところ、『環境を良くする会』を紹介されました。緑のカーテンで日本一、世界一エコな町にしたいと思えます。」と抱負を話しました。



見事な緑のカーテン



三反田小学校で段ボールコンポスト講習会を実施

3人目は、エコドライブの推進などに力を入れている温暖化防止分科会長齋藤保夫さん。「段ボールコンポストで生ごみ堆肥化に取り組む市民を増やしたい」と話し、「可燃ごみの4割が生ごみと言われていますが、それを堆肥化や自家処理できたら、ごみ削減につながります。」と説明し「生ごみは生(いき/意気)ごみです。」と笑顔で締めくくりました。

これからも、暮らしやすいひたちなか市を次世代につないでいける活動を続けて行きます。

わがまちの環境活動

食とみどり・水を守る

ひたちなか市民の会

私たち市民の会は、平成3年7月に「食とみどり・水を守る勝田市民会議」として発足しました。そして、平成7年にひたちなか市が誕生したことに併せ、「ひたちなか市民の会」に名称を変更し、発足以来27年間市民レベルでの生活環境改善に向けた取り組みを基本に、これまでの活動の灯を消さぬよう「環境を考える学習会」を中心に活動をしています。昨年は、「食の安全を考える集い」として、「種子法廃止で考える食の安全とは？」をテーマに9月に学習会を開催しました。

私たちには、豊かな自然と安心して暮らせる生活環境を、わたしたちの子や孫に引き継いでいく責任があります。今後も市民レベルの活動の灯を消さぬよう、市民運動のネットワークの輪と連携し、取り組みを進めていきたいと考えています。



協働の環境活動を目指して

三代目会長 小川 和昭

本会が発足後、10年を迎え、これまで多くの会員の皆様を含め、事業所、団体、行政のご支援、ご協力により環境啓発活動を行っております。

環境啓発活動の範囲は広く、ひたちなか市の支援を得て様々な環境イベント等を協働で開催し、会独自のイベント・事業も行い、発展、成長してまいりました。

これまでの環境啓発に関する事業を引き継ぎ、会としての重点事業を設定します。関連する地域との協働を目指し、市民の皆様と一緒に幅広く環境活動を行い、次の若い世代への繋がり、周りへの広がりを目指しております。



特定外来植物
オオキンケイギクの除去活動

残雪の中

多良崎城跡斜面

篠刈活動



1月27日の篠刈活動

篠刈活動を平成10年2月に開始してから8年になります。多良崎城跡斜面では、フジツルやツタの繁茂が良すぎ、コナラ・ミズナラを枯らしてしまい、この倒木の後始末に時間を要しました。また刈り払い機を1台入れ、大いに作業を進めようと思いましたが、計画通りになりませんでした。刈り取り作業の安全を図るためヘルメット着用とザイルワークの研修を行いました。

昨年の5月10日(土)の自然観察会には約30名の参

大好評 段ボールコンポスト講習会 生ごみ活用

加がありました。今年度は天候不順の為もあり花の咲きが少なかった。と同時に県絶滅危惧種に指定された植物の盗掘された跡がありました。この事例は毎年繰り返されています。



平成29年11月21日(火)ふあみこらぼにおいて段ボールコンポスト講習会を開催しました。18名の参加者は微生物が生ごみを分解するしくみや、段ボールコンポストの作り方、その手軽さについての説明に熱心に耳を傾けていました。その後、組み立てた段ボール箱に

休耕地利用

そば打ち体験 第4回

栽培から収穫試食

12月2日(土)ふあみこらぼのキッチンスタジオにて、「年越しそば打ち会」を開催しました。参加者は21名。講師は常陸秋そばの会の澤幡さんと榎原さんです。

こねる、のばす、切る、茹でるところまで、お二人のていねいな説明に耳を傾け見事な技に見とれました。班ごとにそば打ちをし、麺の太さのバラつきは手作りならではと笑い合いながら、野菜の天ぷらと無添加のつゆでいただく美味しいそばに舌鼓を打ちました。

基材(ビートモス・もみがらくん炭)を入れて混ぜる作業を行いました。リピーターも多く、設置場所や虫対策などについて具体的な質問がなされ、有意義な講習会となりました。

環境よもやま

4コマ



水素社会とは？

温暖化防止分科会長 斎藤保夫

自動車・家庭・動力等のエネルギーを水素から得た電気(燃料電池)を使う社会を水素社会と言います。水素は燃えても二酸化炭素を出しません。燃えカスが水だけでその水は水素の原料になります。地球環境に負荷をかけない究極のクリーンで循環型のエネルギーと言えます。

集中豪雨や大寒波などの異常気象、化石燃料の枯渇や高騰、人為的地球温暖化などが人類の暮らしを脅かしています。近年その問題解決の切り札ともいえる水素エネルギーについて人々の期待が高まって来ました。

ところで水素爆発を懸念する話をよく聞きますが、漏れても軽いので拡散し、希釈されますので、正しい環境で正しく取扱えば危険ではありません。

課題の一つは水素の原料を何に求めるかです。将来的には循環型を条件にすれば、再生可能エネルギーで作った電気でも水を電気分解する方法に行きつくのではないかと考えられます。運べる電気に換えることとなりますので、エネルギー変換効率も課題になります。水素を気体や液体状態で貯蔵し運ぶことが想定されていますので、そうすると安全性やコスト面で課題が残ります。いずれにしても安定的な供給が不可欠となりますが、現段階では水素ステーションなどのインフラ整備もまだ不十分ですので、水素社会が到来するにはあと20年以上はかかるのではないかと思います。

まず室内にて、堆肥化の取り組み概要等の説明を受け現場に移動しました。日本有数の生産量を誇る干し芋の残渣とその他の堆肥材料を、巨大な攪拌機がみごとな早業で切り返して行きました。6か月経過したものは上質な堆肥ができていました。次に場所を変え、おが粉、一般廃棄物ラインを見学、空き缶やペットボトル等資源物混入の多さに驚き、分別徹底の重要性を痛感しました。



勝田環境(株)企画 干し芋残渣堆肥施設見学会に参加

今後の堆肥製造には一般家庭の生ごみも対象にしてくれることを期待した見学会でした。

お知らせ

平成30年度総会

日時：4月21日(土)
午前10時から

場所：ワークプラザ
勝田大会議室

◎入会手続きも行っていきます。

編集者だよ

面倒かな、続けられるかなとためらいながら始めた段ボールコンポストだったが、一年以上続いている。実際取り組んで見てその良さが分かった。予想外に手間がかからない。今では、いくら生ごみを入れても満杯にならない、臭いのない生ごみ容器という存在になっている。昨年は、できた堆肥でゴージャスを収穫した。段ボールコンポストを始めてから、できるだけごみを出さないように調理しようという意識にもなった。ごみの量を減らしたいという方で、生ごみを処理する場所がないとか、2階以上にお住まいの方には良さそうである。(石井)

ひたちなか市の環境を良くする会 事業所会員の紹介

<p>リコーインダストリー(株) 勝田事業所</p> <p>ひたちなか市武田1060 www.industry.ricoh.co.jp</p>	<p>Hitachi Koki</p> <p>日立電動工具</p>	<p>Bio Power</p> <p>木質バイオマス発電所(株) バイオパワー勝田 ひたちなか市高野 1974-1 TEL029-270-3341</p>	<p>私たちは、 美しい地球を次の世代へ</p> <p>株式会社 カツタ ひたちなか市高野1968-2 TEL(029)270-3711代 http://www.eco-katsuta.com/</p>	<p>廃棄物の中間処理施設</p> <p>株式会社 カツタ ひたちなか市高野1968-2 TEL(029)270-3711代 http://www.eco-katsuta.com/</p>	<p>ガーデン・エクステリアのデザイン・施工 Maki planning http://www.mams-garden.com/ プロが選ぶガーデン経営の専門店 Mam's garden http://www.makipla.com/</p>
<p>ひたちなか・東海 ハイトラスト株式会社 ひたちなか市新光町103-2 TEL(029)265-5371</p>	<p>セイメイヤ</p> <p>ひたちなか馬渡店</p>	<p>ひたちなか市馬渡 TEL(029)265-5371</p>	<p>廃棄物からエネルギーへ</p> <p>私たちの使命は、 「つなげること」</p> <p>勝田環境株式会社 ひたちなか市高野2354-2 TEL(029)272-2164 http://www.katsuta.com</p>	<p>Sinary</p> <p>化粧品・日用品・ アロマまで、石油系化学物質 を使わない、人と環境を守る 製品です。シナリー-櫻季(株) TEL029-271-0766</p>	<p>Globe Team-works KOMATSU コマツ 建設工場 〒310-0001 茨城県ひたちなか市高野1968-2 http://www.komatsu.com</p>